

## 三重大学病院における NST 活動の現状

三重大学医学部附属病院 1)救命救急センター、2)NST、3)看護部、4)薬剤部、5)検査部、6)糖尿病・内分泌内科

岩下義明<sup>1)</sup> 手島信子<sup>2)</sup> 前田綾子<sup>3)</sup> 松田未来子<sup>3)</sup> 水谷典子<sup>3)</sup> 日置三紀<sup>4)</sup> 山田真帆<sup>4)</sup> 小寺恵美子<sup>5)</sup> 矢野裕<sup>6)</sup>

【はじめに】三重大学医学部附属病院では2012年より全病院型のNSTの立ち上げを開始し、2014年8月よりNST加算の取得を開始した。当院におけるNST活動の現状を報告し今後の展望について考察する。

【結果】2014年8月～2015年3月に131例のNST介入を行った。依頼元診療科は消化管外科、肝胆膵外科、救急科の順に多く、3診療科で全体の38.1%を占めていた。NST介入患者の平均在院日数は67.3日(中央値47日)と長く、NST介入期間も平均57.5日(中央値18日)と長期の介入を要する患者が多く見られた。依頼内容は経口摂取不良に対する介入依頼が多かったが、重症病態のため経管、経静脈の併用を要する症例も見られた。

【考察】大学病院では、手術後、救急搬送、特殊な病態のため長期入院を要する患者など、重症患者での依頼が多い。このような患者は気管切開下での経口摂取や、経口と経管と経静脈を組み合わせた管理など、特殊な対応を要することがある。患者の転帰として地域病院へ転院となる患者も多く、今後は転院・退院後の連携も考えて行く必要があると考える。

【結語】当院におけるNST活動を報告した。重症患者に対し、地域病院との連携を通じてよりよい栄養管理を行っていきたい。